

4年次（最終年次）

主体的・協働的な学びを育む支援

～幼稚部段階から高等部段階までの授業の創造～



期日 平成31年1月25日（金）9:00～16:10

場所 東京学芸大学附属特別支援学校・成美教育文化会館

「主体的・協働的な学び」は、障害のある子どもたちへの教育の中で従来から大切にされ、議論され続けてきたことであります。本校ではこれまでの3年間「主体的・協働的な学びを育む支援」という主題の下、ICTを活用した学習活動（1年次）や個別教育計画を活用した支援方法（2年次）、評価場面の工夫（3年次）について検討を重ねてまいりました。

さて、4年計画の最終年次である今年度は、これまでの3年間の研究成果を踏まえ、幼稚部から高等部までの全ての教員が「授業のポイント」を活用した「主体的・協働的な学びを育む授業」についての実践を進めてきました。

つきましては、下記の通り研究協議会を開催いたします。ご多用のことと存じますが、多くの方のご参加をお待ちしております。

9:00～9:30	9:30～9:50	10:00～11:00	11:10～11:50	11:50～12:45	12:45～14:25	14:40～16:10
受付	全体会	研究授業 公開授業	ポスター発表	昼食	分科会	講演

全体会 今年度の研究概要・各分科会の紹介

研究授業 幼稚部 朝のあつまり

小学部 学級「えいごのじかん（外国語活動）」

変更

中学部 総合学習「学習発表会」

高等部 くらし「被服」

主催 東京学芸大学附属特別支援学校

後援 東京都教育委員会 東久留米市

講演

「知的障害のある子どもの文法獲得—わかることばで話しかける授業のために—」

伊藤 友彦（東京学芸大学）



授業では、テーマや視点にかかわらず、子どもたちにわかることばで話しかけることがいつの時代でも大事だと思います。そのためには子どもたちの語彙や文法知識を把握しておく必要があります。しかし、教員は日本語の文法を自由に使いこなすことができるので、子どもたちが日本語をどれだけ理解してるのかを改めて考えてみるのがないように思われます。そこで、今回は、知的障害のある子どもの文法獲得についてお話しします。

研究授業・公開授業

幼稚園	ひかり組	研究授業	朝のあつまり	山内裕史・小泉浩一 蓮香美園・田口悦津子
小学部	ほし組 1・2年生	学級	「あるばむのこうしん（一週間の振り返り）、ふゆやすみのおもいで」	藤野加奈子・柴田琢磨・坂詰健司
	そら組 3・4年生	学級	「あしあと（一月の振り返り）」	池田菜緒・仲野真史・松本直巳
	うみ組 5・6年生	研究授業	学級「えいごのじかん（外国語活動）」	小島啓治・長谷川靖子・林良樹
変更				
中学部	宇宙グループ	研究授業	総合学習「学習発表会」	伊東久美子・齋藤大地
	テレビグループ		総合学習「学習発表会」	長谷川智子・沼澤聡子・仲野宏樹
	乗り物グループ		総合学習「学習発表会」	野原隆弘・鈴木和也・山口知子
高等部	1年	研究授業	くらし「被服」	末利容子・松本晃・高野裕美
	2年		くらし「調理」	橋都由美子・高橋絢子・渡邊聡
	3年		くらし「住まい」	川井優子・岩本悠希・田島僚大

*太字になっている授業が研究授業、その他は公開授業となります。

分科会

● 分科会 1 (幼稚園)

【共同研究者：大伴 潔 橋本 創一 林 安紀子】

○主体的・協働的な学びにつなげる幼稚園の遊びと保育園との交流保育

幼稚園では、幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を主体的・協働的な学びの素地と考えた。そして、一人ひとりの障害特性に応じて遊びの変化を検討したうえで、幼稚園と交流保育の学びに連続性を持たせる取り組みを行ってきた。ポスター発表では、幼稚園における授業事例や幼稚園版「授業のポイント」を紹介する。分科会はシンポジウム形式で行い、話題提供として幼稚園の「朝のあつまり」と東久留米市立しんかわ保育園との「交流保育」の実践を紹介する。幼児期における主体的・協働的な学びの素地を育むという視点から、授業実践や交流保育について協議を深めていきたい。「交流保育」の様子は分科会前の時間を使って映像で紹介する。

● 分科会 2 (小学部)

【共同研究者：小笠原 恵 藤野 博】

○『活躍』の視点から見る主体的・協働的な学び一期待する児童像とは一

小学部では、主体的・協働的な学びについて期待する児童像を設定し、それらを引き出し、充実させることに重点を置いて授業づくりに取り組んできた。その有効な手立ての一つとして、「活躍場面」の工夫が大きな役割を果たすのではないかと考えた。活躍とは、「他者と活動や課題を共有するなかで、自分のもっている力を十分に発揮して、他者から応援や称賛を受けること」と定義した小学部研究の中核となるコンセプトである。分科会では、小学部教員全員の授業実践を反映して作成した「授業のポイント」を紹介する。また、うみ組（5・6年生）の授業を参観していただき、児童一人ひとりの支援の在り方について協議するとともに小学部版「授業のポイント」を活用した授業作りについて検証したい。

変更

● 分科会 3 (中学部)

【共同研究者：小林 巖 澤 隆史】

○仲間と認め合い 仲間と楽しむ 授業づくり

思春期を迎え、心身ともに多様な変化をしてゆく中学部の年代においては、「仲間と認め合い」「仲間と楽しむ」姿が重要であると考えており、そうした姿を引き出すための授業の工夫を行ってきた。加えて、これまで研究してきたICT機器の活用や、目標や評価についての工夫がどのような形で授業の中で実現できるかを検討してきた。分科会では総合学習の授業をもとに、中学部版「授業のポイント」の視点から、また「仲間と認め合い 仲間と楽しむ」ための授業の工夫について、各参加校の皆様と活発な意見交換・協議をしていきたい。

● 分科会 4 (高等部)

【共同研究者：池田 一成 奥住 秀之 村山 拓】

○卒業後を見据えた生活の主体者意識を育成する授業実践ー「人生の主人公はわたし」ー

高等部では「主体的・協働的な学びを育む支援」という全体テーマのもと、ICTを活用した学習活動の充実、主体的な参加を促す個別教育計画、主体者意識を高めるための自己評価の在り方を中心に研究を進めてきた。今年度は3年間の研究のまとめとして、高等部が社会生活への橋渡しとなる段階であることを鑑み、卒業後の生活への主体者意識の育成を目指した授業実践を重ねてきた。分科会ではくらし実技（被服）の授業と高等部版「授業のポイント」をもとに、授業づくりの前提となるポイント、学習活動に関するポイント、教員の支援に関するポイント等について協議できればと考える。

ポスター発表

本校の教員が「主体的・協働的な学びを育む授業」に関して取り組んだ実践を、ポスター形式にて発表します。多くの方々にご参加いただき、お互いの授業実践について語り合う場としていただければ幸いです。

<参加費>

参加費・・・2,000円（当日受付にてお支払いください）

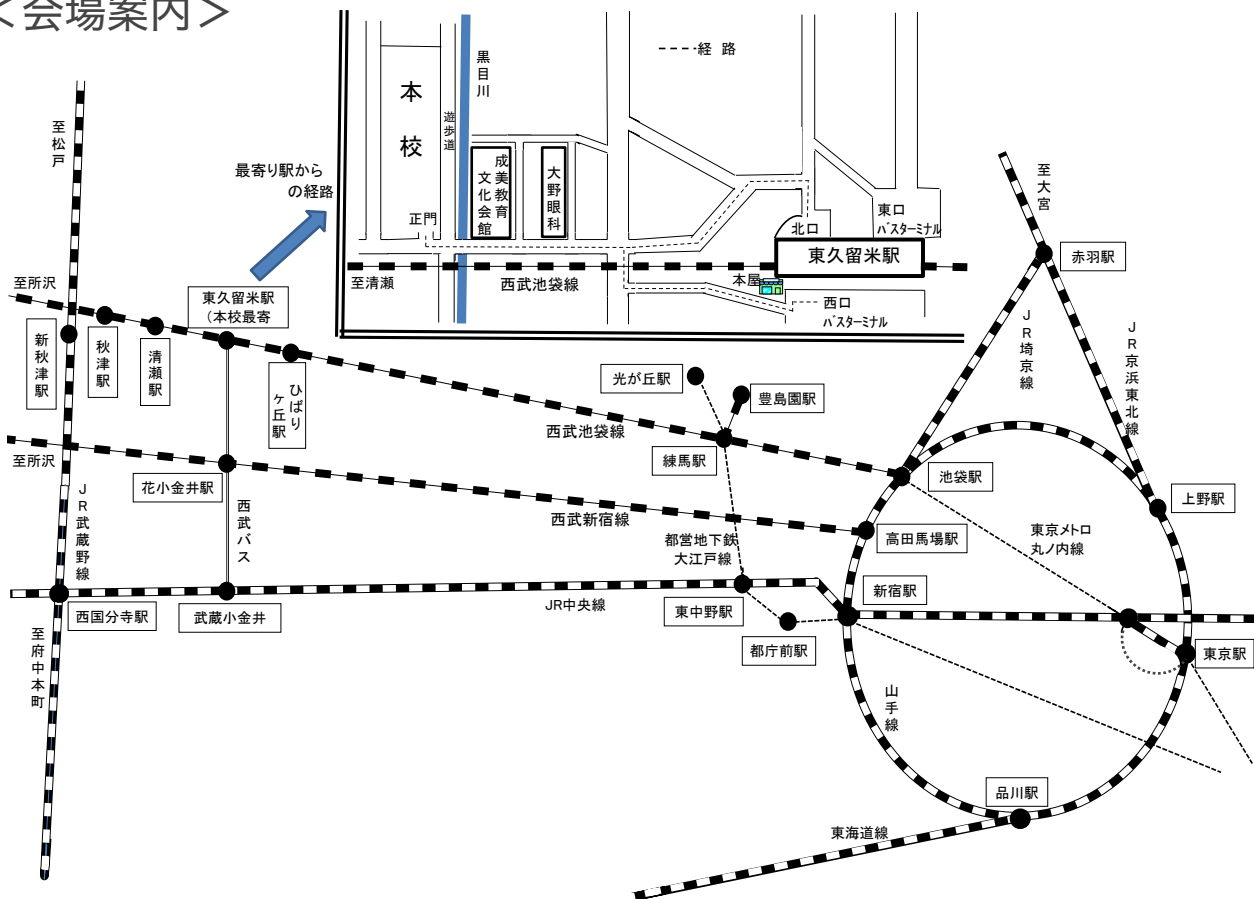
お弁当代・・・1,000円（希望される方は申込書に記入し、当日受付にてお支払いください）

<申し込み方法>

同封の「参加申込書」に参加を希望される分科会の番号をご記入の上、ファックスまたはメールでお送りください。会場の都合上、希望者が多い場合は第二希望の分科会をお伺いすることもありますのでご了承ください。「参加申込書」はホームページにも掲載します。メールでお送りいただく場合はそちらをご利用ください。締切は平成31年1月15日(火)です。締切日以降は下記の連絡先までお問い合わせください。

●申し込み先 ファックス：042-471-5275 Eメール：sskenkyu@u-gakugei.ac.jp

<会場案内>



- 西武池袋線 東久留米駅東口（北口方面）徒歩10分
 - 西武バス東久留米駅西口 徒歩10分
- *お車でのご来場はご遠慮ください。

<問い合わせ先>

東京学芸大学附属特別支援学校 〒203-0004 東京都東久留米市氷川台1-6-1

Tel:042-471-5274 Fax:042-471-5275

Email: sskenkyu@u-gakugei.ac.jp URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~tokushi/>

研究主任 齋藤大地